

新宮山彦ぐるーぶ第1963回
行仙宿巡回と水場・行仙岳・浦向道(旧通信道)の点検巡視

◇実施日2018年02月04日(日)晴時々雪しぐれ、
 ◇参加者・豊嶋 寛、川島 功、沖崎吉信、生熊敏男・千満子、
 児嶋道夫、濱野兼吉、畑林清子、上村洋司・和美、
 山川治雄、竹中卓治、奥村順夫、高階美根子、
 乾 克己、梶野照雄。
 16名。

新宮組8名は、沖崎(川島・児嶋・畑林)、豊嶋(濱野・生熊夫妻)車に分乗し7時25分に出発。

国道168号線は凍結もなく順調良く走れ、宮井大橋を渡り169号に入ると、九重で道路標識の気温表示がマイナス2度を表示。車の車外温度を知らせる装置も警戒音を発し気温は同じくマイナス2度、道路は乾燥しているためか橋の上でも凍結はなく、順調良く不動峠トンネルを過ぎる。下北山村に入り浦向三叉路で奈良市の乾車、堺市の梶野車、尾鷲・海山の奥村車(高階・竹中)、上村夫妻車(熊野の山川)と合流。浦向道登山口の近くに在る森林組合倉庫横まで全車が移動駐車し、四輪駆動・スタッドレスタイヤを装着している沖崎、豊嶋、乾車に乗り換える。

国道425号のカノウナギトネルを過ぎ、いつも凍結する橋を渡った坂の付近から路面一杯に積雪があり、凍結していないかと心配するが、スノータイヤの四輪駆動車は雪の上を何の苦もなく登坂する。四ノ川林道に入ってから積雪はあるものの凍結がなく、9時05分に補給路登山口に到着。

全員揃ったところで、沖崎事務局長からの本日の活動指示があり、行仙宿小屋に向けて出発。

私は豊嶋さんからダブルストックを借り、山川さん持参の補助ロープを豊嶋さんと分けてザックに入れ出発。沖崎さんはモノレールを降ろして荷物を積み込み運転。



積雪の登山口到着



登山身支度



登山口水場



モノレール終点への登り



冠雪の笠捨山



鉄塔分岐後の登山道

梶野さんは水場でパイプにうまく流入しているか点検し、7リットのポリタンクに水を入れ手に持って運び上げる。途中、竹中さんと交代しながら小屋まで運び上げる。補給路の積雪は、5〜10cm位でさほど苦にすることもない。今日の作業工程を考えれば時間もたっぷりあるので慌てる必要もない。10時10分に小屋に到着。小屋の外の寒暖計はマイナス4度。
 小屋に入るとストーブに火を付けるのに上村さんが悪戦苦闘している。原因はどうやら煙突に煤が溜まり引きが悪くなっている

様なので、煙突を外側から叩き煤を落とし、煙突の引きが良くない火が勢いよく燃え始める。

上村さん達の世代は、竈で火を焚くという習慣がないからと見ていたが、それだけではなかったらしい。

川島さんや乾さんは、歩いて体温が上がって汗をかいたのか身体から白い湯気が勢いよく吹き出している。乾さんは上半身裸になりタオルで拭いて肌着を着替えられた。私も息を吐くと息が白くなる程小屋内も気温が低い。程なくストーブが利いて小屋の中も温かくなる。



寄贈の銘酒「頒花」



到着後ストーブを囲みで小休止



昼までには少し時間があり、沖崎さんの提案で行仙岳へ登る組、水場点検組、小屋に残り作業する組に分かれる。

小屋の居残り組は、倉庫の整理、締め飾り等処分し、昼食用のお湯を沸かして待機。

行仙岳組(沖崎・豊嶋・竹中・上村・畑林・生熊・高階)は、リーダー沖崎さんで女性陣を中心に10時半頃に出発。

北西の風が強く、新雪でなく表面が僅かにクラストした積雪15〜20cmの奥駈道を辿り11時05分に山頂に到着。風も強くなり寒いので小休止に留めて行仙宿へ戻る。風も強く倒木等の登山道への障害物は無かった。



行仙岳への奥駈道



東口登山口分岐付近



山頂手前の登山道



行仙岳山頂にて記念撮影



山頂より下山途中



私は梶野さんと二人で水場点検に行く。雪道の下りは滑らないように慎重に階段の手摺やロープに掴まりながら下る。まだ凍結がないので安心だが、結構身体が強張り歳を感じる。水場は雪解けの水滴がポタポタと落ちていて、氷が薄く張っている程度で、梶野さんは雪平鍋で落葉や底に溜まった小石など掻き出す。水場の上の沢浴いは水柱がびっしり張り付いている。水場もまだ涸れる様子もなさそうなので引き返す。今後は階段の凍結に気をつけなければと思って、11時半前に小屋に戻る。



水場への道



行仙宿水場



貯留水に薄氷

小屋に戻ってしばらくすると行仙岳組も戻り昼食となる。正月のお供えの鏡餅をストーブ上板で焼きただく。恵方巻寿しやサシマゼシの差し入れ、メザシが出て楽しい食事となる。川島さんから埼玉県の芹沢清実さんから歳暮に下さった福島県の大吟醸酒「頌花」を皆で御馳走になる。



銘酒を頂き昼食時のくつろぎ・談笑

食後、児嶋さんのコーヒーが出て、お菓子の差し入れを頼張りながら談笑をする。最後に沖崎さんより今年、再度鳥海山にチャレンジし、岩木山、八甲田山を巡るとの提案がある。



冠雪ソーラーパネルの除雪



参加者の記念撮影

昼食後、ソーラーパネルに積雪していると発電しない事から、梶野氏が点検するとの事から川島が手伝う。東側の屋根に設置のため、風下側の吹き溜まりで積雪が多く、ソーラーパネルは完全に積雪で覆われている、ジョレンとポールで除雪する。

下山前に行者堂に集合し、生熊氏導師で般若心経を勤行し、記念撮影をする。車を回送する沖崎・生熊・竹中の3名を小屋に残して、浦向道の踏査点検に出発。小屋の寒暖計はマイナス6度。私と乾さんはアイゼンを装着する。モノレール終点上の浦向道分岐から分かれいよいよ浦向道への尾根道に入る。直ぐにミズナラの倒木があり、道を塞ぎ横捲きしないと通れない。山川さんのチェーンソーでは、歯が短くてどうかと思われたが、倒木は枯れて案外軟らかく難なく処理、安心して通れるようになった。私も道を塞ぐシャクナゲをノコギリで処理をした。懸案の丸太橋は異常なし。

尾根道から杉林に入る。この間は標識が沢山付けられていて安心して歩ける。心配された林道が真下に見える捲き道もロープを使用することもなく四ノ川林道に下りる。小休止の間に倒木処理で遅れた山川・梶野さんが合流する。



浦向道への分岐



鉄塔分岐地点尾根のミズナラ倒木切除



道を塞ぐ腐倒木をチェーンソーで切除



手鋸で切除



丸太橋・異常なし



四ノ川林道への急階段



林道で小休止

林道から下も杉植林帯を下る。こちらの杉林もよく手入れされていて、樹齢も高く立派な杉林である。樹間に生えているユズリハの葉が下るにしたがって元気に青々としてくる。不思議なことだが、モノレールから上のユズリハは葉が萎れ痛々しかったが、ここでは葉がピンとして元気そのものである。
雪も消えてアイゼンを外す。児嶋さんは持参の熊手で杉の落枝や落葉を掃いて下さり随分歩きやすくなる。杉の倒木が2本ありこれも山川さんに任せて下り、廃屋植林小屋前で休憩する。



林道より下った植林帯の杉倒木の切除

廃植林小屋地点で小休止

最終的に山川さんはチェーンソーで倒木4本を処理したとのこと。今回の踏査点検で浦向道は安全に通ることが出来る事を確認した。雪で多少時間がかかったが順調良く進み15時15分に森林組合倉庫の駐車地に着くと、回送組が寸分違わずほぼ同時に合流。
奥村・山川氏が到着していない。数名が出迎えに浦向道へと戻る。程なく、橋を渡って少し上りになる地点から遅れた奥村君に付き添った山川さんが一緒に下山して、全員が無事下山する。
改めて山彦のチームワークの良さを認識する。
終礼で川島代表からの本日の行動が無事安全に終了したことへの労いのことばと、沖崎さんから次回の2月18日(日)「かつえ坂から21世紀の森」への参加確認をして散会した。

今回は適度な積雪であった事と、風がなく気温もそれほど下がらなかったため、雪道を楽しみながらのいい例会であった。



下りで最初の橋を渡る 森林組合倉庫駐車場に下山 後続待つ



最後尾無事下山

解散前の終礼

行動タイム

新宮7:25→8:30森林組合倉庫P8:45→9:05登山口9:20→9:50第二ノチ→10:10行仙宿10:30→11:05行仙岳11:10→11:35行仙宿12:45→13:50林道14:00→14:30廃植林小屋→15:15森林組合倉庫P(解散)15:45。

(記：濱野。写真：川島・梶野)